



2016年10月14日

秦 野 市
小田急電鉄株式会社

秦野市と小田急電鉄は「秦野市立 宮永岳彦記念美術館」における 連携を開始します

秦野市（市長：古谷義幸）と小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区、社長：山木利満）は、鉄道の日（毎年10月14日）にちなんで、2016年10月14日（金）（以下、「連携開始日」という）から、「秦野市立宮永岳彦記念美術館」（以下、「美術館」という）において、小田急関連の常設展示コーナーの開設などの連携を開始することといたしました。

宮永岳彦画伯（1919年～1987年）は、かつて秦野市名古木のアトリエにて創作活動を行い、「光と影の華麗なる世界」と称される美人画や、流麗な線と華やかな色彩を持ち味としたグラフィックデザインで知られています。また、秦野市を“ふるさと”として愛し、文化会館の緞帳や市内の学校校舎の壁画などの作品も数多く残したほか、「ぺんてるくれよん」のパッケージキャラクターは長年にわたり親しまれています。秦野市では、宮永画伯の遺族から寄贈を受けた数多くの作品を常設展示するため、2001年10月に秦野市鶴巻北に美術館を開館し、今月で15周年を迎えます。

また、宮永画伯は、1957年に当時としては画期的な性能、デザインの特急車両として登場した小田急電鉄の特急ロマンスカー3000形（SE）のカラーリングや内装に携わったほか、小田急沿線の箱根や江の島、丹沢などへの旅客誘致ポスターも多く手がけるなど、小田急電鉄とも深い関わりを持っていました。

このたび宮永画伯と縁の深い秦野市と小田急電鉄が連携し、美術館の魅力向上と地域活性化に向けた事業を展開することといたしました。



秦野市立宮永岳彦記念美術館



「新型特急ロマンスカー」ポスター

秦野市と小田急電鉄による美術館における連携事業の概要は、次のとおりです。

1. 小田急コーナーの開設

連携開始日より、美術館宮永作品常設展示室に小田急関連の常設展示コーナーを開設します。

宮永画伯による箱根・江の島・丹沢などへの旅客誘致ポスター、特急の車内誌などの作品や、3000形（SE）のカラーリングが承継されている歴代特急ロマンスカーの写真や模型などを展示します。

2. 開設を記念したイベント・キャンペーンの実施

(1) 写真・資料展「小田急と秦野」の開催

昭和2年の小田急小田原線開通以来、深い関わりを持ち続けている小田急電鉄と秦野市の歴史を振り返るとともに、歴代の特急ロマンスカーなどを紹介する写真や資料等を展示します。

- ① 日 時 連携開始日～10月23日（日） 午前10時～午後5時
- ② 場 所 美術館市民ギャラリー

(2) 小田急コーナー開設記念キャンペーンの実施

開設を記念し、10月30日（日）まで美術館宮永作品常設展示室の来館者に、小田急電鉄からノベルティを進呈します。

(3) 子ども絵画コンクール「身近なみんなの小田急線」の開催

市内の子どもたちが身近な存在の小田急線をモチーフに描いた絵画を募集します。

- ① 募集期間 2016年11月1日（火）～2017年1月15日（日）
- ② 応募資格 市内在住の小・中学生
- ③ 応募作品
 - ・市内を走る小田急線の電車、駅、乗務員や駅係員などを描いた絵画
 - ・小田急線への夢や希望などを自由な発想で描いた絵画
- ④ サ イ ズ 四つ切画用紙（380×540mm）※タテ・ヨコ自由
- ⑤ 画 材 絵の具、ポスターカラー、クレヨン
- ⑥ 応募方法 作品裏面に住所・氏名・年齢・電話番号・学校名・学年を記入した用紙を添付し、同美術館に持参（受付は開館日の午前10時～午後5時）
- ⑦ 表 彰 秦野市長賞、秦野市教育長賞、小田急電鉄賞（各1点）、
入選（若干名）、参加賞（応募者全員）
※各賞及び入選には賞状・副賞を授与。参加賞は小田急電鉄から贈呈
- ⑧ 作品展示 2017年2月18日（土）から26日（日）まで、美術館市民ギャラリーで応募作品すべてを展示。表彰式は展示初日の18日（土）に実施予定
- ⑨ 問い合わせ 秦野市教育委員会生涯学習課（電話 0463-84-2792）

3. 来館者への記念品の進呈

連携開始日以降、美術館宮永作品常設展示室の来館者に対し、来館回数に応じて通年にわたり小田急電鉄から記念品を進呈します。

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

住 所：神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2（小田急線鶴巻温泉駅下車徒歩 2 分）

電 話：0463-78-9100

開館時間：午前 10 時～午後 7 時 ※入館は午後 6 時 30 分まで

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12 月 28 日～1 月 2 日）

観 覧 料：宮永作品常設展示室は 300 円（高校生以下は無料）

以 上

【参 考】

宮永岳彦画伯プロフィール（秦野市ホームページより）

『光と影の華麗なる世界』と称される美人画で知られる、洋画家・宮永岳彦。その特有な世界を創りあげていた流麗な線と華やかな色彩は、戦前から 1960 年代に至るグラフィックデザインでの研鑽が預かるところも少なくない。

父親の転勤のため静岡県磐田郡（現在の磐田市）で生まれ、名古屋市立工芸学校に学んだ。2 度の兵役後、実家のある秦野市名古屋に帰り、アトリエを構え、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、1946（昭和 21）年から 15 年間にわたり創作活動を続けた。

その後、東京都新宿区筑土八幡町に居を移し、1979（昭和 54）年に日本芸術院賞を受賞、1986（昭和 61）年には二紀会理事長に就任、油絵はもちろんのこと、ポスター、書籍等の表紙画と装丁、挿絵、水墨画に及ぶ異色というべき多彩さで作品を残し、それぞれ第一級の先駆的業績をあげた。

また、『ぺんてるくれよん』のパッケージ（向かい合う男の子と女の子）や『小田急初代特急ロマンスカー』（3000 形 SE 車）の内外装のデザインも手がける。

実家・アトリエのあった秦野を”ふるさと”として愛し、秦野市文化会館の緞帳（大小ホールともに）や市内の学校校舎の壁画、カルチャーパーク中央にある噴水の像、秦野の夏の祭典『たばこ祭』のポスターなど、ゆかりのある秦野に多くの作品を残している。

略歴

| | |
|--------------|----------------------------------|
| 1919（大正 8）年 | 2 月 20 日静岡県磐田郡に生まれる |
| 1931（昭和 6）年 | 名古屋市立工芸学校に入学 |
| 1936（昭和 11）年 | 松坂屋百貨店名古屋本店入社 |
| 1942（昭和 17）年 | 第 29 回二科展初入選 |
| 1946（昭和 21）年 | 復員 秦野の実家に帰る 松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務 |
| 1947（昭和 22）年 | 二紀会創立展に出品 |
| 1972（昭和 47）年 | 二紀会理事に就任 |
| 1974（昭和 49）年 | 「皇太子・同妃両殿下御肖像画」制作 秦野市功労者表彰を受賞 |
| 1978（昭和 53）年 | 「平和憲法公布記念式典図」制作 |
| 1979（昭和 54）年 | 日本芸術院賞受賞 |
| 1980（昭和 55）年 | 「第 1 回国会開会式記念式典図」制作 |
| 1986（昭和 61）年 | 二紀会理事長に就任 紺綬褒章受章 |
| 1987（昭和 62）年 | 4 月 19 日逝去 勲三等瑞宝章受章 |

以 上